



医療法人社団 鈴木歯科クリニック
院長 鈴木喜之

私は高齢者歯科講座（当時は全部床義歯学講座という総入れ歯を専門にしていました）に6年半在籍していました。ですので、もともと高齢者に関わることが多かったのですが、訪問診療は限られた器具を用いての診療になるので、患者様が安心、安全に治療を受けていただくことに不安があり躊躇していました。

ですが、平成31年春に介護施設で父を亡くしたことがきっかけで訪問歯科診療に関心を持つようになりました。父の時には何もできなかった私ですが、「高齢者の方にはしっかり食事とって欲しい！」と強く思うようになりました。施設の方やご家族の方はいつも忙しく、食事、排泄、睡眠、身の回りの世話などで大変な思いをされています。高齢者のお口の中を快適にするには「歯科的な治療や日々の口腔内清掃、そして摂食、嚥下に関わる食事がしっかりとれる事」がキーになります。

鈴木歯科クリニックは高齢者ご本人や介護をされているご家族の「お口の困りごと」に寄り添いたいと思います。

鈴木歯科クリニックだからできる、利用者さまとのコミュニケーションや多職種連携！
今までにあったご相談内容とその後の変化の紹介

歯科スタッフの
専門的な口腔ケア



口の周りの筋肉や
機能の改善・維持



ミールラウンドや
カンファレンスを通した
多職種連携



ご相談内容 #1 施設職員さまより

毎食後に入れ歯にべったり食渣がつきます。入れ歯がゆるいのでしょうか？食べ方の問題でしょうか？

◆80代男性 要介護 2 杖歩行

- ・上下ともに歯は1本もありません。・椅子に座り、箸を利用し自分で食べられている
- ・認知症はほぼなく、理解もあり、意思疎通も可能である
- ・上下総義歯使用にて常食

結果① 咀嚼しているように見えるが、モグモグとずっと動かしているだけのようにも見える。

＝上顎の義歯が緩く、少し横に口を動かすと落ちてくる

→まずは入れ歯にクッション材をつけ、歯茎への吸着をよくすることに成功！！

本人への聞き取りと施設職員様との話の中で、あくまで義歯である為、硬い(たくあんのような噛みきりにくい物)は咀嚼が困難であると判断し、停止。その後、入れ歯を新しく作り変えました。



結果② 舌の動きの虚弱＝舌を動かし、口腔内の食物を上手くまとめられず残渣が着している(口腔機能の低下)

→認知機能がしっかりされており、口腔機能訓練が可能であったことから、積極的に間接訓練を行いました。

『パタカラ』『あいうべ体操』『舌回し』こちらを月4回と、デイサービスでも行ってくださったことで出来なかった舌打ちの動き(舌前後の動きが良く、音がなるように)になった！！

直接訓練では、ペコちゃん飴を利用し舌を上手く動かし、薄くなるまで舐めることと溜まった唾液を何度も嚥下するという筋力へアプローチ。※キシリトールの棒付きキャンディは糖尿病の疾患があっても安全です。

結果③ 食事環境において集中できないことや水分摂取が極端に少ない

→「こまめな水分補給も増え、全量食べられるようになった」と報告を頂き、健康状態への改善が見受けられた。

※現在はすべての治療が終わり、月4回の歯科衛生士による口腔ケアと3カ月に1度院長の往診でお伺いしています。